

旅行取扱状況の概観（平成18年9月分）

海外旅行の取扱額をみると、一般団体は取り扱いが伸びず前年実績に届かなかったが、学生団体が好調に推移し大きく前年実績を超えたため、団体旅行合計では前年実績を上回り2ヶ月ぶりの前年比プラスとなった。企画旅行では、ホリデイの取り扱いが鈍化したため、5ヶ月ぶりに前年比マイナスとなった。個人旅行は、取り扱い堅調で、前月に続いて前年実績を上回った。

海外旅行合計は、企画旅行は伸び悩んだが、団体旅行、個人旅行の堅調により前年比100.4%と、前年実績を僅かに超え、5ヶ月連続で前年実績を上回った。

国内旅行の取扱額をみると、学生団体は取り扱い堅調で前年実績を上回ったが、一般団体は取り扱いが減少し前年実績を下回ったため、団体旅行合計では前年実績に届かなかった。企画旅行では、メイトの取り扱いが堅調に推移したため、前月に続いての前年比プラスとなった。個人旅行では、航空券は前年実績を超えたが、JR券、宿泊券がいずれも取り扱いに伸びがなく前年実績に届かなかったため、合計では前年実績に達せず、前月に続いての前年比マイナスとなった。

国内旅行合計は、団体旅行、個人旅行の低調が影響し、前年比98.9%と3ヶ月ぶりに前年実績を下回った。

外人旅行は、取り扱いが急増し前年比108.4%と大きく前年実績を上回った。

9月の総取扱額は、国内企画旅行、海外団体旅行、海外個人旅行は堅調であったが、国内団体旅行、国内個人旅行の低調により、前年比100.0%と前年並み実績に留まった。

1. 海外旅行

(1) 団体旅行

一般団体は、取り扱いが減少し前年実績を下回る結果に終わった。特にイベント関係の取り扱いが低調であった。学生団体は、海外修学旅行を中心に取り扱いを伸ばして前年実績を大きく超え、前月からの好調を維持し、4ヶ月連続の前年比プラス。方面別の取り扱いでは、中国、台湾、タイ、シンガポール、およびアメリカ本土が2桁増と好調であった。

(2) 企画旅行

ホリデイは、取り扱いの伸びが鈍化し取扱額前年比98.7%、取扱人数前年比90.1%と、ともに前年実績に届かず、5ヶ月ぶりの前年実績割れとなった。取扱額と取扱人数の乖離は燃油サーチャージの影響が大きい。方面別取り扱いでは、中国、韓国、台湾、香港、タイ、ヨーロッパ、オセアニアが好調であった。

2. 国内旅行

(1) 団体旅行

一般団体は、取り扱いに伸びが見られたが前年実績に届くまでには至らなかった。学生団体は、修学旅行以外の扱扱いは低調であったが、修学旅行の取り扱い好調により前月に続いての前年実績をオーバーとなった。

(2) 企画旅行

メイトは、取扱額前年比103.2%、取扱人数前年比で97.8%と遠距離商品の好調により取扱額は前月に続いての前年比プラスとなった。商品別の状況は前月と傾向は変わらず、北海道、沖縄と関西地区商品が好調であった。

(以上)